

# 第4章

---

## 基本理念と展開方向

### 1 基本理念

### 2 計画の基本目標

### 3 施策体系

## 第4章 基本理念と展開方向

### 1 基本理念

子どもは、次代の愛媛を担うかけがえのない存在で、「未来への希望」であり、「社会の宝」です。

近年、子育てを取巻く環境は厳しいものがありますが、子育て家庭の子育てに関する不安感や負担感を解消し、子育ての楽しさや喜びを実感できるようにすることは、現在を生きる私たちの大きな責務であります。

また、郷土で結婚し、子どもを生み育てたいと願う若者に対して、夢と希望が持てる愛媛の姿を示すことが大切であり、若者が郷土を愛し活躍できる風土づくりや、若者の出会い・結婚の支援などを進めていくことが重要であると考えています。

そのためには、行政はもとより、地域、企業、ボランティアやNPO等が一体となって、密接に協働しながら社会全体で子育て支援等に取り組む必要があります。

こうした課題等を踏まえ、愛媛の未来を活力に満ちた豊かなものとするため、本計画においては、4つの視点から、次のとおり基本理念を定めます。

**子ども  
の視点**

子どもが大切にされ、心身ともに健やかに  
成長できる えひめづくり

**親  
の視点**

安心して、夢を持って子どもを生み育てら  
れる えひめづくり

**地域  
の視点**

地域が一体となり、全ての子育て家庭を助  
け合い支え合う えひめづくり

**若者  
の視点**

愛媛で暮らし、良きパートナーとの出会い  
に恵まれる えひめづくり

## 2 計画の基本目標

子育ては、生命誕生から成人に至るまで続き、繰り返されるものであることから、いずれの時期においても不安のない社会環境を提供することが求められます。

また、児童虐待により保護の必要な子どもや、離婚等によりひとり親となった世帯等に対し、温もりのある生活を確保することや、子どもと保護者が犯罪・交通災害から守られる、安心して生活できる環境であることも求められます。

このようなことから、「結婚前後期～妊娠前後期～乳幼児期～就学前後期～学童・思春期」へと各成長段階に応じた5つの基本目標と、子育て全期間を通じた3つの基本目標を定め、8つの基本目標により、子どもや子育てに関する施策を総合的かつ計画的に実施していきます。

第1目標 「家庭を持つことや子育てに夢」が感じられる“えひめ”	<結婚前後期>
第2目標 「命の誕生」が心から祝福される“えひめ”	<妊娠前後期>
第3目標 「家庭・地域の愛情」で育む“えひめ”	<乳幼児期>
第4目標 「希望する幼児教育と保育」が受けられる“えひめ”	<就学前後期>
第5目標 「健やかな成長・自立」を支援する“えひめ”	<学童・思春期>
第6目標 「子どもに温もりのある暮らし」を保障する“えひめ”	<子育て全期間>
第7目標 「親子に安心な生活環境」を提供する“えひめ”	<子育て全期間>
第8目標 「仕事と子育ての両立」を実現する“えひめ”	<子育て全期間>

### 第1目標 「家庭を持つことや子育てに夢」が感じられる“えひめ”

近年、景気の低迷等による不安定な経済基盤やライフスタイルの変化、適当な相手との出会いがないなどの理由で結婚や子育てを希望しながらも結婚や出産をためらうことによる未婚・晩婚化が進み、少子化の進行の一因となっています。

このため、次世代の親となる若い世代が経済的にも自立し、結婚・出産・子育てに夢を持てるよう、就労支援や家庭観・子育て観の意識啓発のほか、結婚を希望する男女の新たな出会いへの支援に努めます。

結婚前後期

### 第2目標 「命の誕生」が心から祝福される“えひめ”

妊娠から出産に至る時期は、心身の変化が著しいことから、心身の健康保持に十分な手当てが必要です。

このため、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を十分に尊重したうえで、母性・乳児、それぞれに応じた施策の展開を図るとともに、授かった命を最大限に救う周産期医療の充実や、子どもの誕生を心から願う人への不妊治療対策の推進に努めます。

妊娠前後期

### 第3目標 「家族・地域の愛情」で育む“えひめ”

乳幼児期

核家族化の進展や地域のつながりの希薄化等により、家庭や地域における子育て力の低下が懸念されています。

このため、出産前や子育て中の人たちの子育てに対する不安感・負担感の軽減や孤立感の解消を図るため、市町や関係団体等と連携しながら、地域全体で子育て支援ができる体制づくりを推進します。

また、いつでも安心して良質な小児医療サービスを受けることができる体制の整備に努めます。

### 第4目標 「希望する幼児教育と保育」が受けられる“えひめ”

就学前後期

就学前後期は、人間形成の基礎が培われる非常に重要な時期であり、幼児教育と保育サービスの充実を図ることが必要です。

このため、質の高い幼児期の学校教育と保育の総合的な提供や、保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善、地域における子ども・子育て支援の充実を図ることにより、全ての子ども・子育て家庭を支援します。

また、放課後児童対策の充実に係るニーズに対応するため、放課後児童クラブの設置を促進するとともに、子どもの発達段階に応じた良質なサービスが提供できるよう、人材育成にも努めます。

### 第5目標 「健やかな成長・自立」を支援する“えひめ”

学童・思春期

学童・思春期は、小・中・高等学校において人間として調和の取れた育成を目指した教育活動が展開される一方で、子ども自身が様々な悩みと向き合い始める時期でもあります。

このため、学校教育活動の充実に加え、社会全体で子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育みつつ、思春期等の悩みを受け止め、問題行動の未然防止や適切な立ち直り支援に努めます。

### 第6目標 「子どもに温もりのある暮らし」を保障する“えひめ”

子育て全期間

被虐待児や障害児、ひとり親家庭等は、精神的・身体的ダメージを受けていたり、身体的・経済的ハンディキャップを抱えていたりすることが多いことから、特に温もりのある保護や支援が必要です。

このため、児童相談所を核とした虐待防止対策を推進するとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、自立と社会参加に向けた障害児の療育、また、ひとり親家庭等の自立支援に努めます。

### 第7目標 「親子に安心な生活環境」を提供する“えひめ”

子育て全期間

近年、子どもが被害者になる犯罪等が多発しており、また、交通量の増大等に伴う交通事故も後を絶ちません。

このため、地域の様々な関係機関と連携し、主体的に行動する住民活動の展開等により、犯罪被害に遭わない安心できるまちづくり、交通事故に遭わない安全なまちづくりを目指すほか、保護者による事故防止のための取組みや、親子が安心して楽しめる生活環境づくりに努めます。

### 第8目標 「仕事と子育ての両立」を実現する“えひめ”

子育て全期間

生活習慣や社会環境の変化に伴い、就労形態が多様化し、仕事と子育ての両立に対する様々な悩みや負担感を持つ人が増加しています。

このため、仕事と子育てが両立でき、男女がともに子育てしやすい職場環境づくりを支援するほか、企業や、企業で働く男女に対して、仕事と家庭の両立を推進する法律・制度の普及啓発や情報提供などを行い、多様な働き方が実現できる子育て環境づくりに努めます。

#### <注記>

愛媛県では、本格的な人口減少社会における本県の人口問題への対策を総合的に推進するため、平成26年12月に「人口問題総合戦略本部」を設置し、平成27年度に県の人口ビジョンと総合戦略（以下、「人口ビジョン等」という。）を策定することとしています。

人口ビジョン等を策定する中で、出生に関する総合的な目標に関しても検討する予定であることから、当該目標については、現時点では本計画には設定せず、人口ビジョン等の策定を踏まえて、改めて検討します。

